

◆生育状況について

果実肥大は平年並みで推移している。ふじの結実が少ない樹が見られるが、収量確保に向けて、管理作業を徹底する。

◆当面する重点作業について

1. 見直し摘果を実施し、品質向上を図る。
2. 新梢管理、支柱立て、誘引等を実施し、園内の風通しと明るさを確保する。
ナミハダニの発生予防、作業効率を上げるために園地の除草(刈取り)を実施、雑草対策をする。
また、日焼け防止対策、鳥害対策を実施する。詳細は、前回情報No.7参照。
3. 土壌が乾燥するとカルシウム欠乏が発生しやすくなるため、かん水や葉面散布などの対策を実施する。
また、多雨による根痛み対策として、排水対策に努める。
4. 鳥害対策を実施する。※果樹総合情報No.6参照。
5. 炭疽病・輪紋病・褐斑病・スモモヒメシンクイ等、重要な防除時期のため、適期に薬剤散布を実施する。
6. ナシヒメコン使用の場合、第2回目の取り付け(50本/10a当たり)を7月に実施する。

◆りんご栽培日誌提出について

りんご出荷予定の方は、期日まで提出ください。

1. 提出要領：7月16日(木)までに地区役員さんまでご提出ください。
※役員さんは7月17日(金)までに各流通センター・共選所までご提出ください。
※各個人で、各流通センター・共選所でも可。役員さんに直接持って行く事をご報告ください。
2. 留意事項
 - 1) 今回提出用の栽培日誌を配布いたしますので、記入不備の無いようご注意ください。
 - 2) 第9回防除まで記入して下さい。
 - 3) 日誌をチェックし、法的に問題がある場合は荷受けできません。
 - 4) 日誌を提出せずに出荷した場合は、日誌提出並びにチェックを受けるまで、荷受・選果・販売はできません。

◆第9回薬剤散布について

1. 散布時期：7月8日(水)～12日(日)

実際散布月	日	月	日
-------	---	---	---
2. 使用薬剤(混用順記載)※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：6000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
ダニゲッターフロアブル	2,000倍	50mℓ	前日	ハダニ類
㊦ イカズチWDG	1,500倍	66g	前日	キンモンホリガ・シクイムシ類・ハマキムシ類
キノンドーフロアブル	800倍	125mℓ	14日	斑点落葉病・褐斑病・輪紋病・炭そ病・黒星病
オーソサイド水和剤	800倍	125g	前日	

3. 散布上の留意事項

1) キノンドー顆粒水和剤は、登録削除されたため、使用できません。

- 1) 7月下旬より収穫する品種（祝・人着つがる）は、収穫前規制のため早め実施するか、キノンドーフロアブルを使用しない。また、8月より収穫のシナノリップ等も遅れないよう実施する。
- 2) 濡れ性・乾きが向上、汚れが軽減のため、通常展着剤に代えて、ササラ 2,000 倍（水 100ℓ 当り 50ml）を使用してもよい。
- 3) イカズチWDGに代えて、アーデントフロアブル 2,000 倍（水 100ℓ 当り 50ml）又はアディオンフロアブル 1,500 倍（水 100ℓ 当り 66ml・収穫 14 日前）又は®ロディー水和剤 1,000 倍（水 100ℓ 当り 100 g）を使用してもよい。
- 4) ダニゲッターフロアブルは、水稻の開花期に飛散すると不稔を生じるため、注意する。

◆品質向上・カルシウム欠乏対策について

品質向上やビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第9回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量 100ℓ 当り

【品質向上対策】

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100ml
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g



【カルシウム欠乏対策】

資材名	使用倍率	調合量
スイカル	1,000倍	100g
カルビタ	1,000倍	100g
ストピットⅡ	500倍	200g
カルタス	500～1,000倍	200～100g

◆苦土欠乏対策について

近年、苦土欠乏による黄変落葉が7月頃に発生することが多くなってきた。軽減対策として、下記を参考に対策を実施する。

1. 使用時期：単用使用で月2～3回散布
（薬剤散布に混用する場合は、混用数が多くならないように注意する。）
2. 使用資材：調合量 100ℓ 当り

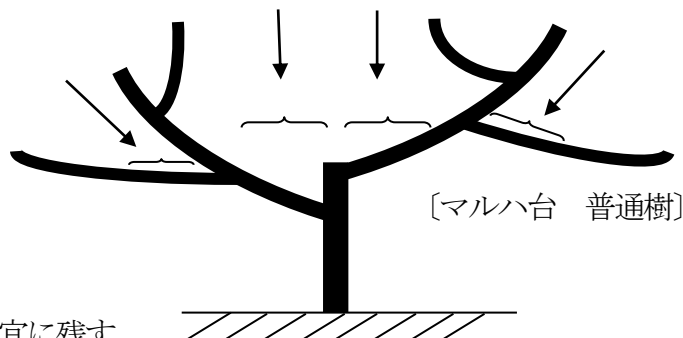
資材名	使用倍率	調合量
リーフマグ	1,000倍	100g
グリーントップ	500倍	200g

◆見直し摘果について

着果過多と良品選抜のため、収穫期まで（サンふじは8月中旬までを目安に）実施する。
特に、ふじは7月下旬頃より変形果がわかりやすくなる。仕上げ摘果終了後も複数回見直す。

◆新梢管理について

1. 主枝、亜主枝や側枝基部の徒長枝（新梢）は全部欠き取るのではなく、30cmに1本位で千鳥に残す。
⇒ 計画的に切り（欠き）取る。
2. 着果不足で樹勢の強い樹は、徒長枝をこの時期切らずに無駄な養分を発散させる。
お盆の頃に切り取る。
3. 殺ダニ剤散布に合わせ、徒長枝（新梢）の処分をする。⇒ 30cmに1本位ずつ千鳥で適宜に残す。
4. 図の矢印部分（主枝・亜主枝の基部）の新梢は強くなりやすいので欠き取る。



◆落果防止剤ストッポール液剤の散布について

1. 高温乾燥条件では効果が低下しやすいため、散布2～3日前にかん水を実施する。
2. 1回散布とする。2回散布は過熟になりやすい。
3. 手散布で果実及び果そう葉を中心に丁寧に散布する。
4. 定期散布とは1日以上間隔を空ける。
5. 散布後4時間は雨に合わない（30分以内で乾く）状態で散布したい。ただし、高温の日中は、葉面の気孔等も閉じ吸収効率が悪いので散布しない。
6. 他の品目・品種にかからないように充分注意する。薬害の発生。
7. ストッポールは登録上では収穫7日前まで散布は可能だが、効果を上げるためには収穫15日前までに散布する。
8. わい化樹は熟度が5～7日進む。また系統によっても着色差を生じる。
9. シナノリップは落果防止剤の散布をしない。
落果防止剤を散布すると過熟（ボケ）やすくなり商品価値が落ちる。着色しない・食味が乗らないうちに過熟になりやすくなる。他から飛散してこないように注意する。

◆「夏あかり」落果防止剤散布について

1. 散布時期：満開80日後頃（7月8日前後）

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：400～500ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前
ストッポール液剤	1,500倍	66ml	25日～7日前まで

3. 散布上の留意事項
 - 1) 展着剤不要。
 - 2) ヒオモン水溶剤を使用する場合は、営農技術員までご相談ください。

◆シナノリップの管理について

特に果実に日光が当たらないと、着色が難しい品種。日焼けに注意しながら、管理を実施する。

1. 着色管理

- 1) 枝で混んでいる場合は、内部に日光が入るように不要な枝を軽く切る。誘引・支柱を行う。
下枝や内部の日光の当たらない果実は、葉摘み等しても着色しない。
- 2) 高温や強い日差しで、日焼けが発生するため、注意が必要。
- 3) 前述の「果実への日焼け防止対策について」も参考にする。
- 4) 葉摘み
 - ①梅雨明け後は、特に高温になるため、梅雨の間に実施する。
 - ②時期の目安は、7月上～中旬。
 - ③果実に密着している葉を摘む。摘み過ぎは、日焼け発生や着色低下につながる。果実温が高くなった、日中に行う。(早朝は実施しない)
明らかに日焼けになりそうな部位は、無理をして葉摘みはしない。

2. その他の管理

- 1) 心カビ発生があるため、早期に着色・地色の抜けが早い果実は、除去する。
- 2) シンクイムシ類の被害が多い品種のため、薬剤散布間隔や散布ムラのないよう注意し、被害果は早期に除去し処分する。
- 3) 鳥害被害が多い品種のため、必要な対策を実施する。